Ｒ７年度　　白井市立桜台小学校

校内全体研究計画

本年度の研究教科

生活科　１・２年

国語科　３～６年

１　研究主題

自分の考えをもち、表現する児童を育てる指導法の工夫

～人との関わりを大切にした『話す・聞く』の指導を通して～

※生活科に関しては、生活科部会の先生方で発表に向けて進めていく。

２　研究主題の設定理由

（１）　昨年度までの研究概要

令和６年度より上記の主題で研究を進めてきた。研究を通して、少しずつだが、自分の考えをもち、表現できる児童が増えてきた。しかし、一定数は自分の考えをもてないと感じている児童もいる。そこで、今年度も引き続き、「自分の考えをもち、表現する児童を育てる指導法の工夫～人との関わりを大切にした『話す・聞く』の指導を通して～」を主題として研究を行っていく。

（２）昨年度末の研修の振り返り(令和７年度２月実施)

研究授業等で実践した手立てとして効果的であったもの

・グループメンバーの組み合わせ。
・児童の実態に合ったワークシート質問をたくさん書き出せるワークシート。
・ペア、グループ活動
・教師のモデルを提示する。（単元のゴールを示す）
・ICT の活用
・相手意識（誰に何を伝えるか）
・伝え合いの内容の精選の　伝え合いの柱を明確にする。（何について話し合うのか）
・単元構想メモを活用することで、学習内容のめあてが明確になり、つけさせたい教師もしっかりと意識して指導することができた。

「話す･聞く」の視点で現在の桜台小学校の児童に　もっとつけさせたい(足りないと感じる)力は、何ですか。

・最後までしっかり聞く　　反応しながら聞く
・順序立てて話す。
・大事なことを聞き漏らさない力。
・共感する力、要点を聞き取る力（一方通行の発表はできるが、会話のキャッチボールができない）
・どんなことでも話して良いという学級の雰囲気作り
・話す人の方に体を向けて、聞く人はしっかり聞くこと。

・相手の考えを最後まで聞く、尊重して聞くそのものができていない。
・相手に伝えよう、届けようと発表や話す姿が弱い。
・物事を比較しながら伝えようとする姿が見られない。
・要点を押さえて聞くこと。
・話を聞く姿勢（話し手の目を見て、相づちを打ちながら聞くなど。）
・聞く態度（手遊びしないで聞く。メモを取って聞く。など）
・必要なことや、要旨を聞き取る力。
・聞いている話を自分の事として捉えながら聞くこと。
・聞いた話を一般化して相手に伝えること。
話し合いをしようとする土台の形成。話し合いの日常化
・伝えたいことを、はっきりと相手に聞こえるように言うという基本の徹底。
・【聞く】話に集中（注目）する態度、最後まで聴く、話に反応する
・【話す】相手意識をもって話す

質問④

「話す･聞く」以外で、現在の桜台小学校の児童に　もっとつけさせたい（足りないと感じる）力は、何ですか。

・あいさつ・返事・言葉遣い
・語彙やそれを使いこなす力。
・自分が伝えたいことをまとめられる力。
・基礎学力（前学年までの計算、漢字）
・我慢　・礼儀　・他者理解　・助け合い　・集中力
・粘り強く取り組むこと。
・自分の考えを表現する、文章にする力
→作文、日記などの書く学習を増やせば、集中力や我慢ができる時間増えると思います。
・当事者意識。（「自分には関係ない。」「誰かがやってくれるだろう。」）という考えの子が多い気がします。せっかく学校に来ているから、「こんなことをやってみたい。」と思って欲しい（せっかくパワー）。
話し合いをしようとする土台の形成。同様。
・自分の考えを自分でしっかりと文章化できる力。
「反応」する：

（３）全国学力学習状況調査の結果からの考察

全国学力状況調査の結果より、国語科「話す・聞く」の正答率は、６１．７％であった。また、３年間での経過を見ると、全国平均よりも低い傾向にある。知識・技能を問う問題では正答率は７８％に対して思考力･表現力を問う問題に関しても、６５％という結果だった。さらに、解答形式では記述式の問題が、選択式の解答形式に比べて著しく低い。以上のことからも、知識･技能は身に付いているにもかかわらず、自分の考えを話したり、書いたりする表現力には課題があると考える。以上のことからも、「話す聞く」の基礎を身に付けるとともに、自分の考えをもち、相手に発信する表現力を身に付けていくことが必要であると考える。

（４）学習指導要領より

育成を目指す資質・能力を「①知識・技能　②思考力・判断力・表現力　③学びに向かう力・人間性」とし、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を求めている。特に、本校の研究主題は、「自分の考えをもち表現する力を育てる指導法の工夫」としているが、これは②思考力・判断力・表現力の「日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う」に関連する部分が多く、これからの教育に必要不可欠なものであると考える。

（５）学校教育目標より

本校では、生涯を通じて主体的に学ぶことのできる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもの育成を目指して、

未来に向かってがんばる子　～　チャレンジ！～

を教育目標に掲げている。

【めざす児童の姿】

①主体的に学ぶ子

- ○粘り強く学びに向かう子
- ○見通しをもって学習する子
- ○学習の成果を生かせる子

②心があったかい子

- ○丁寧に話をする子
- ○元気に挨拶をする子
- ○自分も他者も大切にする子

③あきらめず、努力する子

- ○できることを増やせる子
- ○健康を促進できる子
- ○自分の命は自分で守れる子

本校は、上記の学校教育目標及びめざす児童像を掲げ、日々その具現化に努めている。「自分の考えをもち、表現する力を育てる」では、他者との関わり合いを大切に、自分の思いや考えの伝え合う中で、表現する力を育てていこうと考える。

３　目指す児童像

【低学年】自分の思いをもち、自分の思いを表現ことができる。
【中学年】友達と伝え合う中で、自分の思いや考えをもち、表現することができる。
【高学年】友達と共有することにより自分の考えを明確にし、表現することができる。

４　研究の仮説

仮説①

考えをもつ場を工夫すれば、自分の伝えたいことを精選して考えることができるようになり、自分の考えを明確にすることができるであろう。

仮説②

伝え合いの場の工夫をすれば、自分の意見を進んで発表したり、相手の意見を積極的に聞いたりする力を身に付けることができ、表現する力が身に付くであろう。

５　仮説への手立て

仮説①の手立て

①単元のゴールの提示（〇相手意識（誰に何を伝えるか）　〇資料　〇発表）

②単元構想メモの活用

③題材の精選

仮説②の手立て

①伝え合いの形態の工夫

〇ペア　〇グループ　〇ペアやグループを決めずに自由な話し合い　〇全体

②伝え合いの内容の精選

〇伝え合いの柱を明確にする。（何について話し合うのか）

〇伝え合いの目的を明確にする。

・伝え合うことで、一つの意見にまとめる

・伝え合うことによって、よりよいものを作り上げる

・伝え合うことで、自信をもって発表できるようにする

・伝え合うことで、自分の考えをまとめる

③伝え合いの方法の工夫

〇発表資料の提示の仕方（ICT、実物…）　〇発表ボード、ワークシートの活用

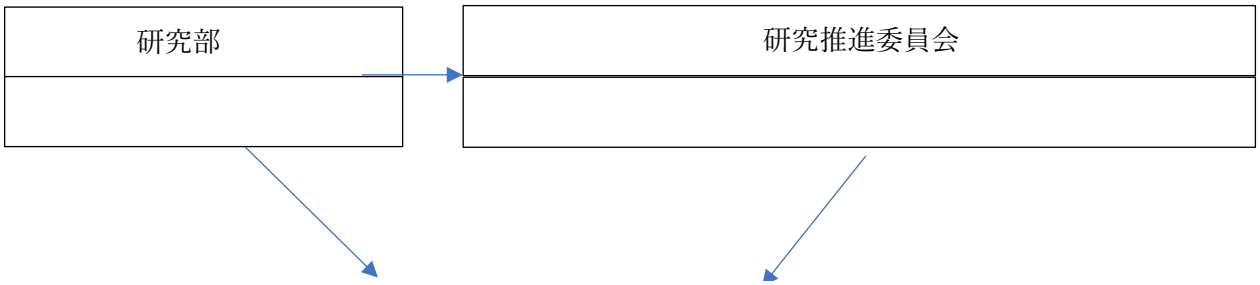
６　仮説に関する検証方法

〇教師が設定した「児童に身に付けさせたい力（単元のゴール）」と「単元の学習を終えた児童の姿」の同一性。

（資料・児童の様子）

〇学習に対する児童の変容　（振り返りカード・アンケート）

７　研究の組織



生活科部会	国語部会①	国語部会②	特別支援部会

＜研究部＞

・具体的な研究推進についての計画や原案を立案し、研究実践の円滑な運営を図る。
・推進方法についての変更事項などを伝達する。
・毎回の会議の目的を明確にする。（研究主任）
・「話す・聞く」土台や「伝え合い」の土台に関する学習の掲示物作成やアンケートの作成する際には、リーダーとなって進める。

＜研究推進委員会＞

・具体的な研究推進についての計画や原案を立案し、研究実践の円滑な運営を図る。
・推進方法についての変更事項などを伝達する。
・毎回の会議の目的を明確にする。（研究主任）
・授業形態や資料、発問などのサポートをする。

＜全体会＞

・研究計画について共通理解し、具体的に実践する母体とする。
・原則として木曜日。　・受講、実技研修、研究協議を行う。

８　研究の内容・方法

①日常における「話す・聞く」態度の形成（第２回　職員会議　学習指導及び研修だよりを参考に）
②国語科・生活科の授業実践（一人一授業授業）
　○各部会年１回、公開授業研究会（外部講師あり）を行う。
　　（国語科・特別支援は１月予定、生活科に関しては部会で決める）
　○公開授業研究会の反省会には全職員出席する。
　○公開授業研究会で授業をしない先生は、７月～１月の間に授業実践実施
　　（参観者　各部会・管理職＋校内の参観希望者）
　○授業公開の際は、「単元構成メモ」「本時の指導案（略案）」を作成する。
　○指導案検討については、部会研修日に行う。（授業公開は、部会研修日以外でもよい）
　　※部会研修日をすべて使わなくてもよい。
　　※部会研修日の計画については、各部会長が立てる。（研究主任に計画を提出）
　　※検討の内容は「単元構成メモ」「本時の指導案（略案）」「授業のふり返り（授業後）」の３点とする。

生活科部会	国語部会①	国語部会②	特別支援部会

１０　若年層研修について

若年層研修対象者

　○若年層研修長の役割
　　・若年層研修の計画・運営
　　・授業研修会の日時の設定、指導案検討等の日程の計画、先生方への周知

１１　研究の計画

※担当の先生が計画・進行をお願いします。合わせて、開始時間・場所・持ち物等の周知もお願いします。

月	日	曜	研修内容	研修・形態	備考
4	10	木	○研修の方向性の確認　○エピペン研修	全体	
	24	木	○生徒指導研修	全体	
5	1	木	○研修なし（プール清掃）		
	8	木	○救命救急法研修１４：３０～	全体	
	15	木	○国語科・生活科　理論研修会（予定）	部会	
	22	木	○公開授業研究会授業者決定⇒運動会準備	部会	
	29	木	○研修なし（運動会準備等）		
6	5	木	○一人一授業の「単元」「公開日」を決定	部会	
	12	木	○全国学力状況調査の見直し	全体	
	19	木	○特別支援研修会（予定）	全体	
	26	木	○部会研修日	部会	
7	17	木	○Y-P 研修	全体	
	夏		○夏季研修（ICT 研修）（予定）	全体	
	夏		○夏季研修	全体	
8	夏		○夏季研修	全体	
9	5	木	○部会研修日（予定）	部会	
	25	木	○部会研修日（予定）	部会	
10	2	木	○部会研修日（予定）	部会	
	9	木	○部会研修日（予定）	部会	
	30	木	○部会研修日（予定）	部会	
11	6	木	○部会研修日（予定）	部会	
	13	木	○部会研修日（予定）	部会	
12	4	木	○部会研修日（予定）	部会	
	18	木	○部会研修日（予定）	部会	
1	8	木	○部会研修日（予定）	部会	
	15	木	○部会研修日（予定）	部会	
	22	木	○授業研究会（国語科　特別支援）（予定）	全体	
	29	木	○年間計画、別葉の見直し	全体	
2	5	木	○学習支援アドバイザー（予定）	全体	
	12	木	○今年度の研修のふり返り	全体	
3	5	木	○来年度に向けての取り組み		
	12	木	○来年度の方向性について	研推	※研究推進委員会

※部会研修日のうち学習支援アドバイザー２回、ICT 支援アドバイザー２回、日程の変更もあります。
　変更後のスケジュールは、「研修だより」でお知らせいたします。

※部会長の先生は、計画を提出願います。（後日配布予定）